

2011年2月22日

岐阜県知事 古田 肇 様

長良川市民学習会 代表 粕谷 志郎  
徳山ダム建設中止を求める会 代表 上田 武夫  
河口堰に反対し長良川を守る岐阜県民の会 代表 山内 克典  
NPO 法人藤前干潟を守る会 代表 辻 淳夫  
長良川水系・水を守る会  
NPO 法人ギンブナの会 代表 後藤 宮子  
長良川河口堰建設に反対する会・岐阜 代表 高木 久司  
板取自然探索・山童 会長 長屋 泰郎

## 岐阜県の河川行政に関する要請書

日頃の県政推進のご努力に敬意を表します。

私たちは、昨年11月24日に「河川行政に関わる緊急要請書」(別添)を提出した団体です。3ヶ月近くを経ましたが、私たちの要請がきちんと検討されているかどうか大変疑問な状態です。残念なことです。

岐阜県では、税収がほんの少し持ち直したとのことですが、財政逼迫の苦境から抜け出したわけではなく「待ったなし」の状態です。他方、愛知県や名古屋市の河川行政は、旧来の姿勢から大きく転換しようとしています。岐阜県の河川行政のあり方が、問い直されています。

これらを踏まえ、昨年11月24日に提出しました「河川行政に関わる緊急要請書」を補強し要請いたします。

11月25日に第1回内ヶ谷ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場(以下「検討の場」という。)が開催され、“決まったもの”のごとくスケジュールが提示されました。

この第1回「検討の場」の配布資料以外何の情報もないまま、11月26日からパブリックコメントが実施されました。しかし、これに応募する意志のある市民からの再三の基本的な情報を求める問い合わせには、まともな返答がないまま、このパブリックコメントは締め切られています。環境に関する情報公開請求に対しても、不可解な「黒塗り」で対応しています。

検証作業で重要な位置にある学識者の会議は、開催日程すら伏せた「完全秘密会議」となっています。

透明性・公開性とは全く縁遠い「検証」のありようには、大きな不信感を抱きます。

本年2月5日、岐阜市で長良川市民学習会主催シンポジウム「長良川に内ヶ谷ダムは必

要か？」には約90名の幅広い層の市民が参加しました。基調講演で、今本博健・京大名誉教授（元京大防災研究所長）は、「内ヶ谷ダムは、長良川の洪水対策には有効でない」との見解を示されました。長良川上・中流域で市民活動をされている方々からも、環境と治水の両面から内ヶ谷ダムへの疑問と批判が示されました。

このまま必要な情報も開示されず、議論もないまま、「検証」の“決まったスケジュール”に沿って結論を出すのでしょうか。

もっと多角的でオープンな議論の場が必要なはずです。透明性・公開性のある「検証」過程を求めます。

2月6日に愛知県知事選挙と名古屋市長選挙が行われました。共同公約をもって選挙戦を共闘した大村秀章氏と河村たかし氏が圧倒的な支持を得て当選しました。木曾川水系（特に長良川）に関する愛知県民と名古屋市民の直近の民意は「木曾川水系連絡導水路事業の見直し」「長良川河口堰開門調査」です。

岐阜県にとって、木曾川水系連絡導水路と長良川河口堰は、有害無益だとしか考えられません。水利権にこだわらない姿勢を示している愛知県と名古屋市とよく話し合い、岐阜県の宝である長良川を再生し、より良いものとする方向で共同歩調をとって下さい。

下記、要請します。

## 記

### 1 内ヶ谷ダム建設事業の検証について

- (1) 必要な情報を開示し、流域住民・県民に説明責任を果たすこと。
- (2) 「検討の場」の学識者委員と市民側推薦の専門家とのオープンな議論の場を設けること。
- (3) 情報が公開されていない現状に鑑み、現行の日程案を強行しないこと。

### 2 木曾川水系導水路事業 および 長良川河口堰開門調査について

- (1) 木曾川水系導水路「推進」の立場をとらないこと。
- (2) 長良川河口堰開門調査実現にむけ、愛知県・名古屋市などと協力すること。

以上。

(連絡先) 長良川市民学習会 武藤 090-1284-1298  
mutohitoshi@yahoo.co.jp